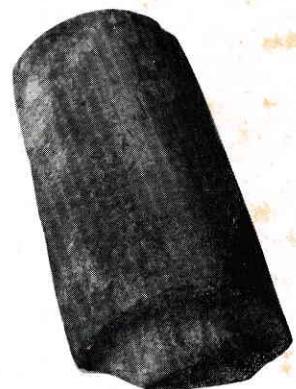
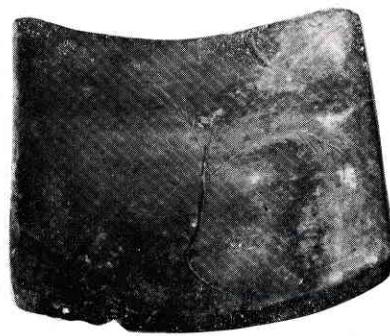


上田の櫓

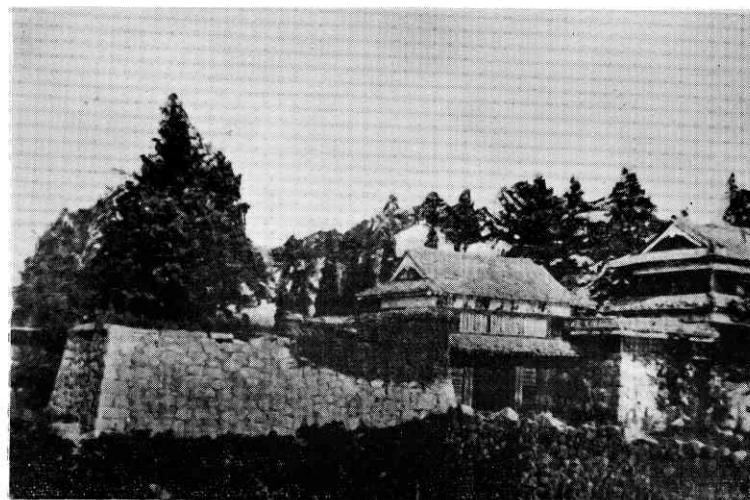
(県宝上田城櫓修理事業報告書)



上田市教育委員会

上 田 城

- 1583 (天正11) (1)真田昌幸築城 小県で38,000石
沼田 27,000石 計 65,000石
- 1600 (慶長5) (2)真田信之 小県 38,000石
沼田 27,000石
加増 30,000石 計 9,5000石 沼田在城
(小県) (元和2年から上田在城)
- 1622 (元和8) 真田氏2代40年間にて松代に移封され
同 年 (1)仙石忠政 小諸から移封さる 小 県83ヶ村 50,000石
川中島 8ヶ村 10,088石 計60,088石
- 1628 (寛永5) (2)仙石政俊 同
- 1669 (寛文9) (3)仙石政明 同
- 同 年 父の叔父政勝に矢沢 8ヶ村2,000石分知 上田領58,088石
- 1706 (宝永3) 仙石氏 3代85年間にて兵庫県出石に移封され
同 年 (1)松平忠周出石から移封さる 小県80ヶ村 48,000石
川中島 8ヶ村 10,088石 計 58,088石
- 1728 (享保13) (2)松平忠愛 同
同 年 弟忠容に川中島 4ヶ村5,000石を分知, 上田領53,088石
- 1749 (寛延2) (3)松平忠順 同
- 1783 (天明3) (4)松平忠濟 同
- 1812 (文化9) (5)松平忠学 同
- 1830 (天保元) (6)松平忠優 同
- 1859 (安政6) (7)松平忠礼 同
- 1869 (明治2) 版籍奉還 (明治4年廃藩置県)



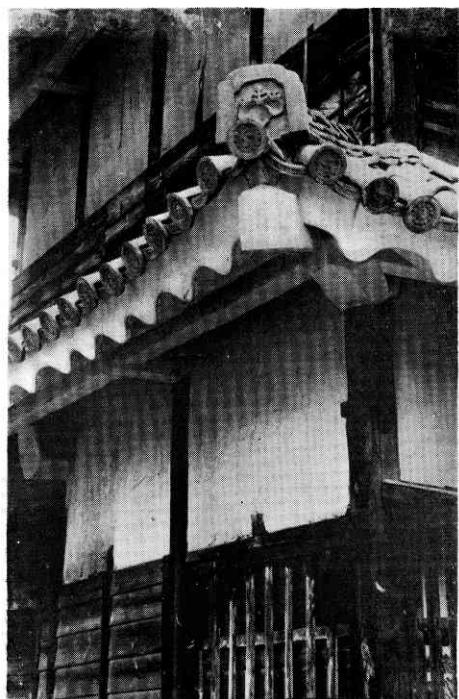
明治六年頃の門櫓



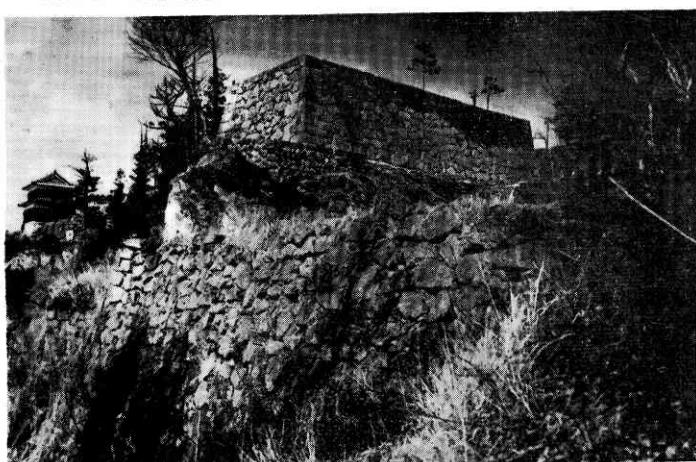
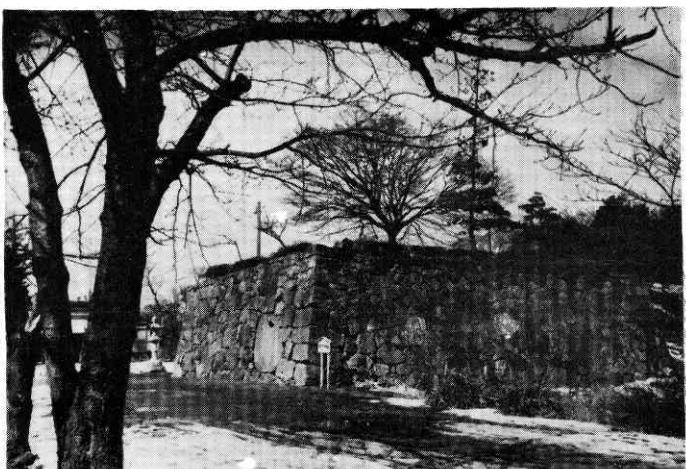
1

明治11年から
昭和19年頃まで新屋
の遊廓に使用されて
いた二棟の櫓

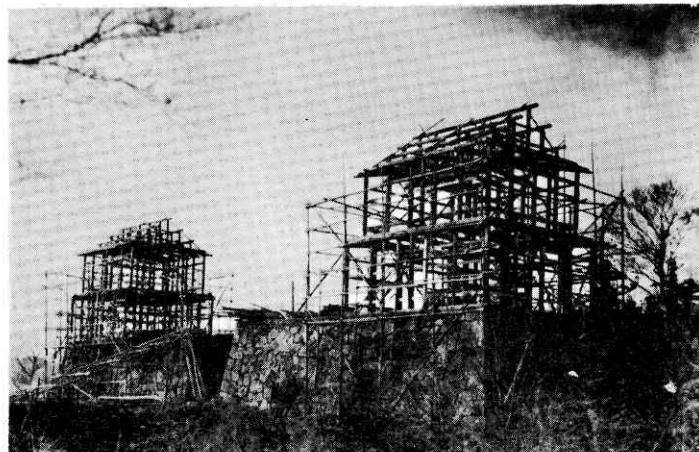




← 一新屋遊廓使用当ても完全に残されていた
城櫓の形一

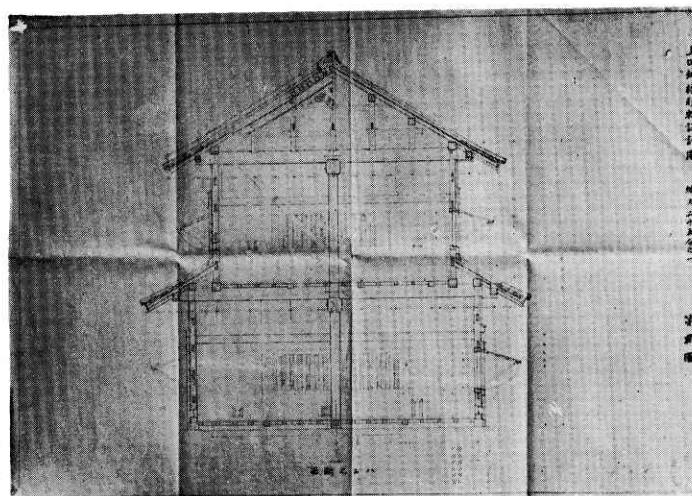
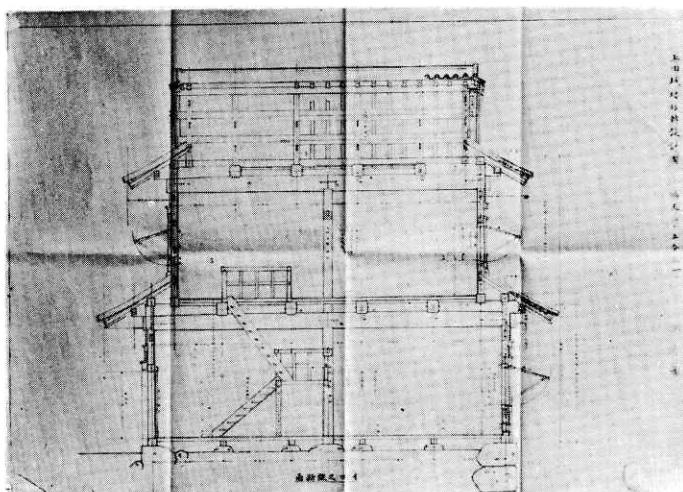
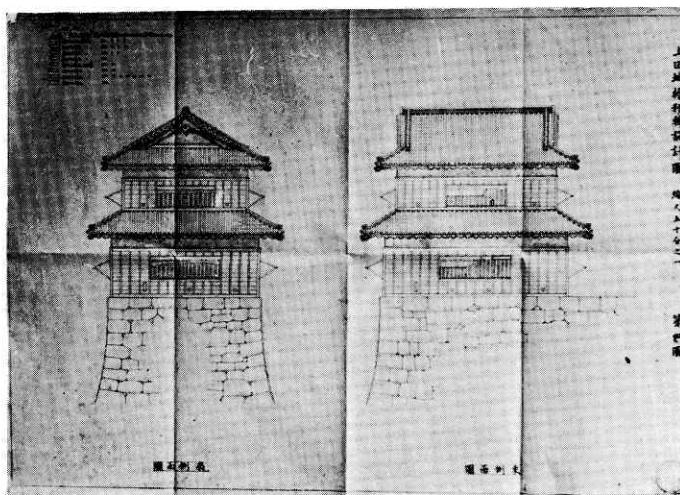


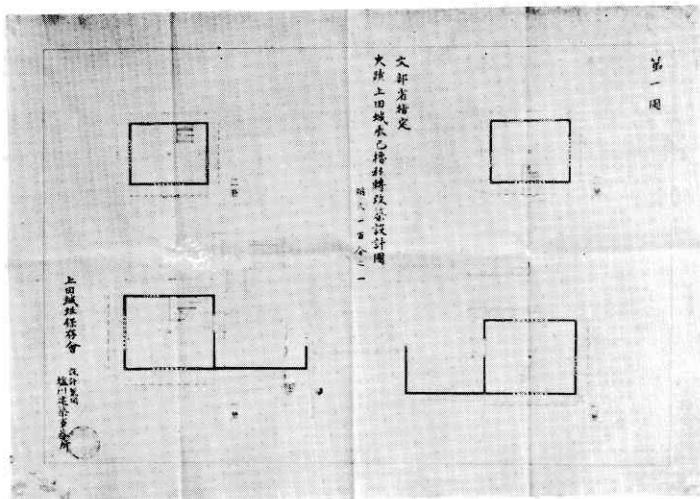
↑
一西櫓を残し、さみしくなった
南北櫓跡（昭和18年まで）一



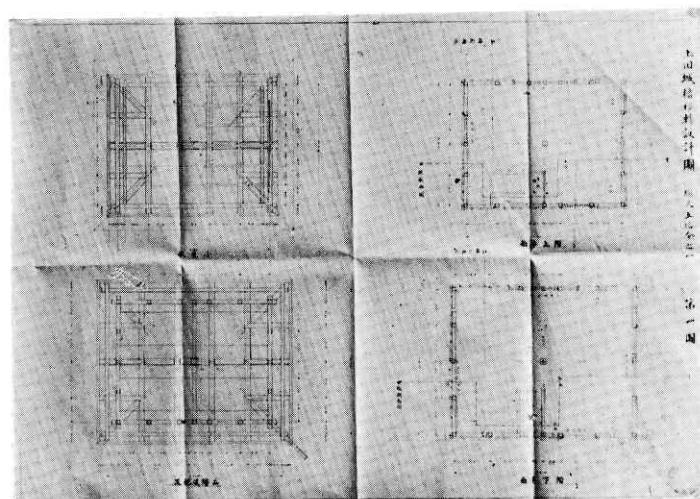
→
一昭和十九年原形のまま再建される
南北櫓の棟上げ一

—南北櫓の移転改築に使用された五種類の設計図（新田 塩川氏蔵）—





④



⑤

昭和17年上田城保存会ができ、昭和19年残されていた櫓の保存と再建を計画した。

昭和24年6月井上市長を会長とする建設委員会が729,300円の寄付金を得て、南北櫓の移転改築をし、上田城に3棟の櫓を残すことができた。（なお再建費用の残金10万円は市へ寄付されている）

一方西櫓は昭和4年屋根、壁等の修理工事をし、同年7月12日上田歴史古館として開館した。

○県宝上田城櫓修理事業内容

1. 概要

上田城は真田昌幸が天正11年着工、翌年竣工したといわれている。小県盆地の中心地、千曲川沿岸尼が淵の段丘上に位置を定め、北方太郎山と岩鼻の陰、東南西は神川、千曲川の自然濠を利用して本丸を築き天守閣を造って濠を構え、二の丸を設けて武器庫、火薬庫、塩庫、米庫等を建てて濠を構えた。つづく三の丸は武家屋敷とした。

関ヶ原合戦後元和8年真田信之は松代に移封され、真田氏に代って仙石忠政上田城主となった。仙石忠政入封と共に、さきに破却された上田城の修築に着手（寛永3年）し本丸に7棟の隅櫓、二の丸に櫓台火薬庫、米蔵等の諸建物が寛永18年に完成した。

宝永3年仙石政明出石に移され、松平忠周出石より上田城に移封される。明治2年版籍奉還、明治11年櫓二棟を新屋に移建した。

大正5年上田城長野県史跡に指定、昭和9年上田城跡文部省史蹟に指定され、昭和19年上田遊廓に利用されていた、旧上田城櫓を旧位置に移建、昭和34年三櫓長野県、県宝指定、昭和42年2月10日屋根葺替修理に着手し、昭和42年3月31日竣工した。

○長野県宝指定

南、北、西櫓三棟 昭和34年11月19日

○構造形式

2層櫓、入母屋造、本瓦葺

○主要寸法

柱間、柱真々 深行	桁行	南櫓 上より 茅負下角まで	一階 8.0m 二階 6.7m 一階10.0m 二階 8.6m 初層4.09m 二層7.88m	北櫓 上より 茅負下角まで	一階 8.0m 二階 6.7m 一階10.0m 二階 8.6m 初層4.09m 二層7.88m	西櫓 上より 茅負下角まで	一階 8.0m 二階 6.7m 一階10.0m 二階 8.6m 初層4.09m 二層7.88m
柱間、柱真々 深行	桁行	南櫓 上端まで	10.91m	北櫓 上端まで	10.91m	西櫓 上端まで	10.91m
平面積			一階80.0 二階57.6 m^2	(延面積137.6 m^2)	3櫓とも同規模		

ア. 建物の概要及び調査事項

南、北、西三櫓は規模は全く同じである、二層、二階、入母屋造、本瓦葺きで外部は内法以下櫓羽目板張り内法上より軒廻り及び妻飾りは塗籠各階共窓をついている。

今回は屋根瓦の葺替えを主体とし一部漆喰壁上塗の補修にとどまったため細部にわたって詳細な調査を行うことはできなかった。

西櫓を除く南、北両櫓は一時、他所へ移築されたこと也有って、細部について西櫓と異なる所もあり、当初の形式が全く同じであったかどうかは今後の詳細な調査をまたねばならない。

西櫓と南、北両櫓の細部の相異点は大きく次の2点である。

区分	西櫓	南、北櫓
軒廻り	茅負まで塗籠、瓦座化粧仕上	瓦座まで漆喰にて塗籠
妻飾	狐格子	塗籠仕上

石積、軸部共弛緩腐損はなく、保存は良好であった。南北両櫓は再三の移築にもかかわらず軸組材は良く当初材が保存れている。

南北両櫓の漆喰壁は亀裂、剥落が多いが今回は最小限の補修にとどまった。

在来の屋根瓦葺の状態はこそく的な葺方で行なわれおり平瓦の葺足も長く、当初瓦から昭和の瓦にいたるまで規格の異なる雑多な瓦で葺れており葺土の風化等により弛緩も甚だしく大きく雨漏の原因となっている。

巴瓦、唐草瓦共、当初材の他三種類に大別出来る。当初瓦は長年月にわたる風蝕により耐久性にいちじるしくかけているが今回は使用可能な範囲において最大限再用した。

2. 修理工事

ア. 工事の経過

南北、西櫓共各所に雨漏を生じ建物保存上支障をきたす恐れを生じたので長野県教育委員会より、県費の補助金の交付を受け工事は上田市教育委員会の指導のもとに請負工事として実施した、

イ. 工期

着工 昭和42年2月10日

竣工 昭和42年3月31日

ウ. 工事費

収入の部

総額 金 1,264,000円

内訳

県費補助額 金 350,000円

所有者負担額 金 914,000円

支出の部

総額 金 1,264,000円

内訳

工事費 金 1,200,000円

壁工事費 金 70,470円

屋根葺替工事費 金 1,129,530円

事務費 金 64,000円

エ. 工事関係者

実施者 上田市教育委員会

指導者 文化財建築技師 領家堯之

上田市建設課

施行者 小幡建設

工事担当者 丸尾信

オ. 工事仕様

○仮設工事、屋根葺替工事を行うに先だち仮設足代を建設した。丸太足場板等損料とし屋根葺替工事と共に一括請負とした。軒先より1m内外、外に丸太掘立柱、要所布をめぐらし、各組手、なまし鉄線揚み、内足場を設け足場板を敷並べ、危険の生じないよう取設けた。

○屋根葺替工事、在来の瓦、葺土とも一旦取りはずし各種瓦とも年代別再用否再用別に選別した。新規補足瓦は寸法形状、紋様等当初瓦に倣い焼成度、1,200度以上、含水率12%以下の製品で狂い等のない製品を使用した。葺土は川砂適量を混和し藁萌を切りまぜ石灰を混入して十分練り上げた。

軒先瓦は瓦座に仕合せた軒平瓦を出12糀とし、なじみよくおき尻手16#銅線で野地に繋結した。

平瓦葺、丸瓦伏とも、瓦割により一通宛水系を引通し通りよく瓦下葺土をおき、登り4枚目毎に銅線をもって野地に繋結し通りよく葺上げた。

○壁工事剥落個所の補修にとどめたが、下地等の不良の個所はていねいにかきおとし、下地を造り、在来の個所となじみよく繕いなした上塗仕上を施した。 文化財建築技師 領家堯之（記）

○上田城残存3棟の櫓

西紀1641（寛永18）年に上田城主仙石氏によって上田城郭の大修築が完成した。これに関する資料は仙石家譜その他に詳細にしるされている。幕府より銀子200貫を賜ったこととか、その設計や普請に関するこまかい注意も記録されている。これによると位置は大体真田築城当時と大差なく石垣建造物等は一切仙石氏時代と解されるようである。ただ最近たまたまその道の権威者によって「石垣はどうも慶長以前」との考証もされるので、こうした詳細については、いずれ後考をまつことになっている。

とにかく仙石氏の大修築によって7つの櫓および2つの渡櫓やその他建造物が完成した。仙石氏3代85年間ついで松平氏7代164年間若干の小破修理は行われたが現状維持のまま明治維新をむかえた。

最も松平氏時代に天守閣問題がおきたが、幕府の許可が得られず、やむなく現存櫓を物見用との名目にて4層に改築問題がおきた。こうして設計図は出来あがったが（房山水野氏蔵）初階が4×5間ではどうにも調和がとれず中止になったとも伝えられてはいる。

明治維新をむかえると間もなく上田城は現状のまま兵部省の所管となり、東京鎮台上田分営がこの城に設けられ信州一円の武器弾薬がこの上田城に集められた。そして乃木少佐が隊長として官兵と共に着任した。こうして一応新しい兵営となり毎日の調練なども行われることになった。

時たまたま明治6年分営廃止となり土地建物全部入札払い下げられることになった。

長野県庁所管 6 A62 進達簿写書

上田城郭御処分伺

1. 上田城地	22587歩085
1. 櫓并多門	9カ所
1. 武 庫	6カ所
1. 火 薬 庫	2カ所
1. 演 武 場	1棟
1. 厩	1棟
1. 馬 場	1カ所
1. 練 兵 場	1カ所
1. 病 院	1カ所

右は迄陸軍省所管東京鎮台営所被建置候処當2月第20号御布達の趣も 有之管所江相合 置候処本月11日
営所引揚に付官員差出立合之上前所の箇所請取申候、就而は 当3月4日第84号御布達官宅払下改正規則
第1章に照し家作地所區別致入札払下取計い追而詳細仕訳御届申上可候
或は別紙城郭絵図面相添此段相伺候

明治6年5月

長野県7等出仕 大久保利貞

ク 権参事 椎崎 寛直

ク 権 令 立木 益善

大蔵省事務總裁

大隈重信 殿

旧各藩城郭調并払下地に関する部 71 A11 附属図面共

上田城趾

（はり紙 所分伺には22,587坪85とあるが 本分歩数の方実地につき正確）

1. 35,731坪8合 この地価金904円70銭9厘6毛

内

○13387坪 8合	平坦	この地価金	562円29銭	但	1坪につき金4銭2厘
○5949坪	土手	この地価金	178円47銭	但	1坪につき金3銭
○16395坪	濠	この地価金	163円95銭	但	1坪に付金1銭

外

○櫓 9棟		此代価金	112円50銭		
○武者立石并屏		ク 金	50円		
○倉庫 6棟	建物144坪	この代価金	240円		
○火薬庫 2棟	建物37坪 5合	ク 金	85円		
○井 戸	1カ所	ク 金	1円		
○松杉 245本 但目通 9尺廻より 6尺7寸廻迄		此代金	122円50銭	但	1本に付金50銭
○同 540本 但目通 6尺5寸廻より 5尺廻迄		此代金	135円	但	1本に付金25銭
○同 165本 但目通り 4尺9寸廻りより 2尺5寸廻迄		此代金	20円62銭5厘	但	1本に付金12銭5厘
○竹 300本 但 目通 6寸廻より 5寸廻迄		此代金	12円60銭	但	1本に付金4銭2厘
○同 500本 但目通 4寸廻より 3寸廻迄		此代金	15円	但	1本に付金3銭
メ 金	794円22銭5厘				

以上が大蔵省払下げ予定価格であったが入札価格はこの価格に達せずついに櫓1棟平均6円で分売されたという。こうしてはじから取りこわされたが、現西櫓だけは、その用途がみつからず取りこわしをまぬがれて現在に至っている。どうにか用途の見当がついて取りこわされた8棟の中6棟はその後皆目不詳になってしまったが、2棟だけは次の様に変遷している。まず明治11年市内新屋地区に遊廓が設置されると、ここに移建されて、金州楼と万宝楼とになった。幸い柱や屋根その他一切原形のままに移建されていた。この移建された2棟も昭和18年再び身売りの運命となつた。2棟1800円で伊豆湯河原温泉への売約をきいた上田市民有志は早速上田城復興会を組織して上田城旧位置に復元することに成功した。昭和19年原形のまま現位置に移建がはじめられたが、何分にも太平洋戦争熾烈のため思う様に進捗せず漸く完工したのは昭和24年6月であった。完工はみたものの資材資金ともに不自由な終戦直後の工事のため壁、屋根等に不完全の点が多かった。特に屋根瓦は2回の移築による不足分を各所から集めてのよせ集めとなり、そのふき方もふく工程ではなく並べる工程に近いものであった。

この不備の点を是非修正して原形に復すための工事が今回見事に完了して寛永の創建当時に復元することができた。

上田市学芸員 清水利雄（記）

上田市博物館南北櫓屋根葺替その他の工事の記録

昭和41年12月5日市建設課の依頼により南北櫓の屋根葺替一部壁修理について見積書を提出現状屋根破損状況は高度のために確認することが至難のため、現況の姿のまま葺替えることにして見積書を提出二棟で金1,250,000円を見積り補充瓦3,000枚にて計画を樹て、冬寒期のため諒解を求めて群馬県藤岡市瀬下瓦店に現物と同じ古代本平瓦本丸等の発註をした。

昭和42年2月15日一部の瓦が焼き上がり到着する。2月20日文化財技師領家堯之氏現場指導のれめ来田市係官と共にその指導を受ける。

当屋根に残雪多くなお足場工事が出来ないため文化財保護の立場から施行面についての指導は後日

ということで一般的な指導に止まる。2月23日足場工事に取り掛る、幅2mの箱定場を計画して始める。3月1日足場工事南櫓だけ終了したので屋根葺替工事に取り掛る、瓦をはずして見ると下地6分の泥板の上に杉皮葺をして3尺毎に泥止の6分に1寸の杉板にて止めてあり勾配は軒先五尺の処から急に強くなっているために、葺土の置き方では勾配の直しは至難であることが判る。なお軒先出の部分は大壁の如く下地の上に粘土を塗り杉皮で覆をしてあり、3月4日領家堯之氏現場指導のために再度来田する。

現場指導要項

- (1) 本瓦の葺足は7寸5分足葺としてあるができる限り短くすること。
- (2) 軒先巴瓦は円の紋様を使用してあるが改修工事の際は全部取りはずし時代を表徵する古代の紋様を入れた瓦を使用すること。
- (3) 鬼瓦は種々雑多の物を使用してあるも成可く統一した五三の桐の紋を入れたものを使用取り替えることを希望する。
- (4) 新しい瓦の補充についてはなるべく正面から見えない部分に使用すること。
- (5) 軒先巴瓦の補充については下段正面入口及び西側に使用すること。
- (6) 軒先巴瓦の使用については5、6種類あるも目につき易い部分は統一した紋様を揃え彫の部分に若干の違のあるものを使用しても差し支えない。
- (7) 瓦の葺方については野地板の高低はあるがなるべく線を出すことに努力して欲しい。
- (8) 壁の脱落個所についてはその場所の強弱を調べて弱い部分はなるべくはぎ取り上塗りを掛ることを希望する。

以上

瓦の葺足を4寸5分にしたために不足瓦の補充枚数が多くなり市の予算が無いため在庫古代瓦を無償寄附して欲しいとの希望が当事者から出たために承諾をする。

3月13日北櫓の足場掛を初める。

3月17日南櫓の平葺完了。

3月18日北櫓の葺替作業に掛る。

前回の屋根施行については葺足は7寸5分丸は全然野地板に銅線にて結びつけてないため破損及び曲り等非常に多く破損瓦も見積り以上に多いのに驚く。平瓦及び本丸に対して今回は一分五厘の電気ドリルにて穴をあけて野地板より二寸亜鉛釘トンボ打にして銅線にて結びつけることにして南櫓より施工したが北櫓も全く同じ状態にありて驚く。

3月31日の工事期限だが天候寒気等により工事竣工が延引する。

4月6日より壁修理もあわせて取り掛る。

4月12日竣工検査を受ける。

補充瓦

本平瓦 2,000枚

本瓦 500枚

厚熨斗瓦 500枚

以上見積枚数

鬼瓦 21箇

雀巴 4箇

隅木冠 17枚

本平 2,130枚

本丸 800枚

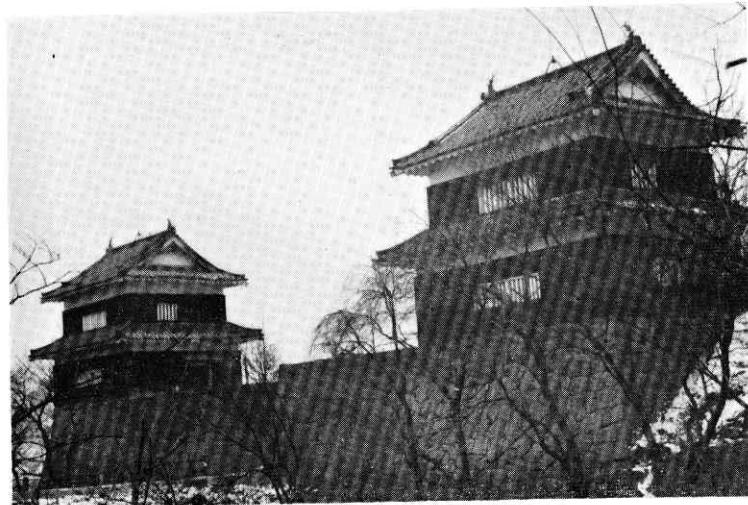
唐草 58枚

新瓦

古瓦

粘土見積10台に対して22台を使用した。

工事担当者 丸 尾 信(記)



—東北側から見た修理前の南北櫓—



—東側から見た修理前の北櫓—



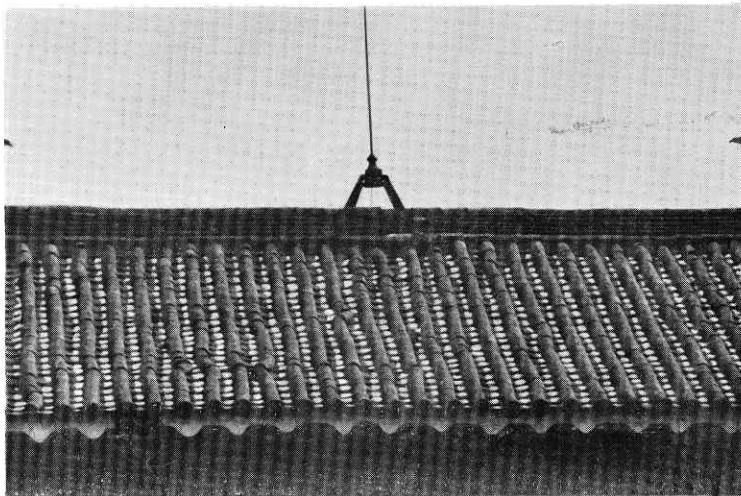
—東側から見た修理前の南櫓—



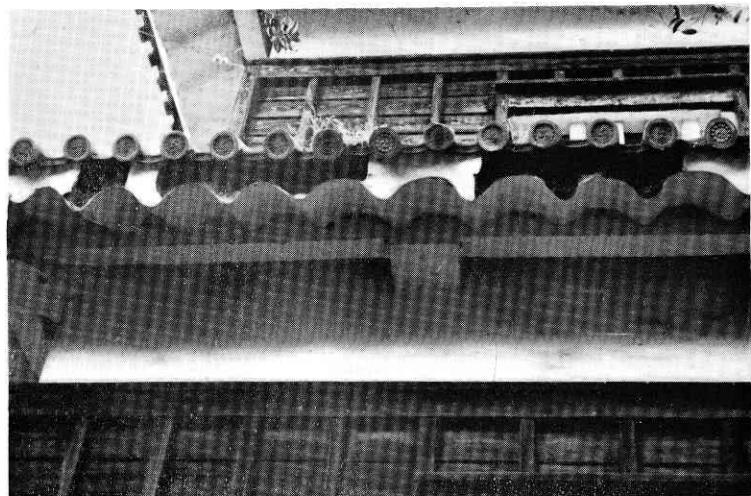
—北側から見た修理前の南櫓正面—



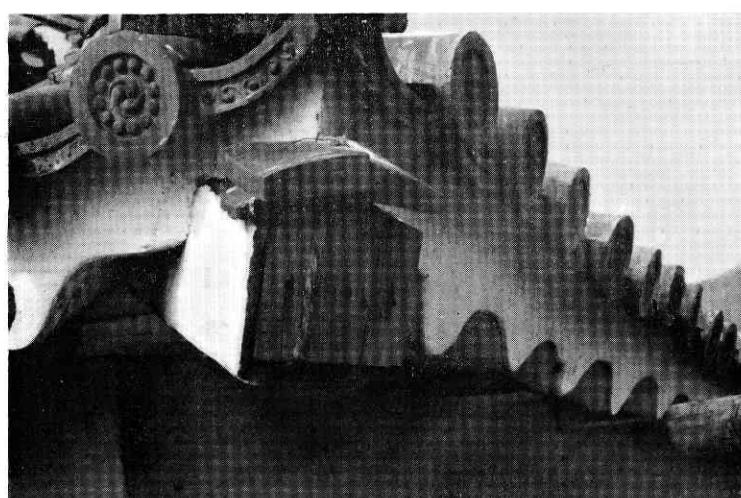
—西櫓（旧微古館）からのぞむ南櫓—



—南櫓二層西側（修理前）—



—南櫓初層東側（修理前）—



—南櫓初層南西側コーナー附近（修理前）—

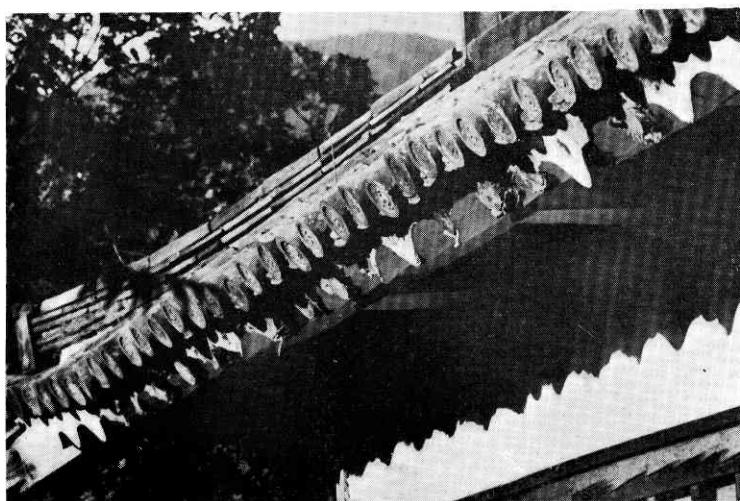
— 南槽正面初層（修理前） —



— 南側二層南側（修理前） —



— 南槽初層西側（修理前） —

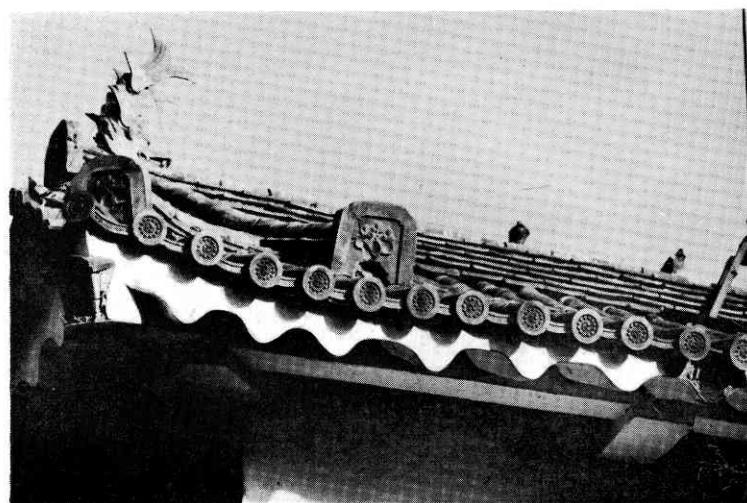




—南檣二層東側（修理前）—



—北檣二層西側（修理前）—



—北檣二層西側（修理前）—

— 北櫓初層、二層西北側コーナー付近
(修理前) —



— 北櫓初層東側 (修理前) —



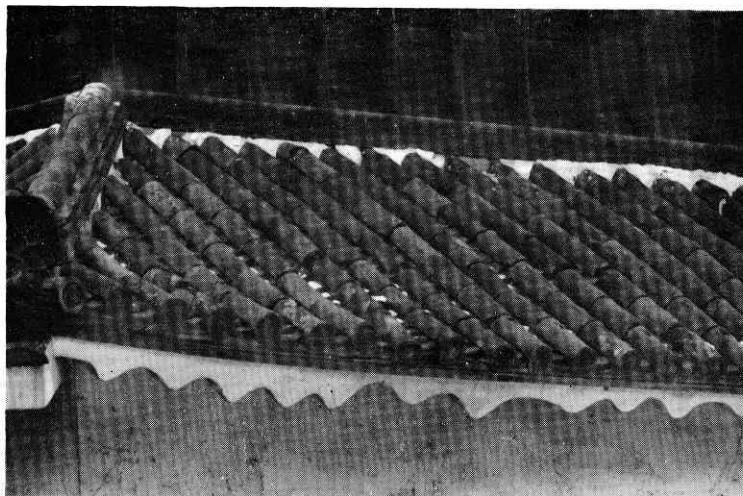
— 北櫓二層南側 (修理前) —



—北櫓西側（修理前）—

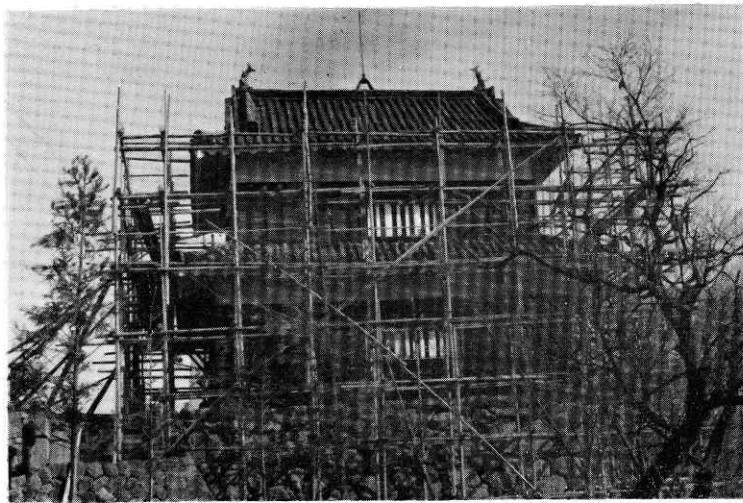


—北櫓初層北側（修理前）—

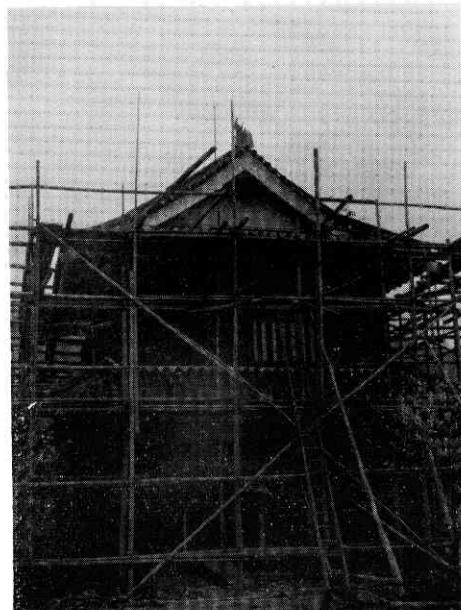


—北櫓二層東側（修理前）—

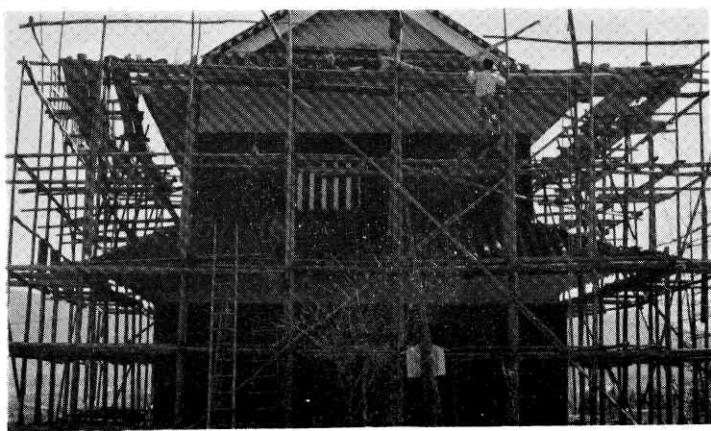




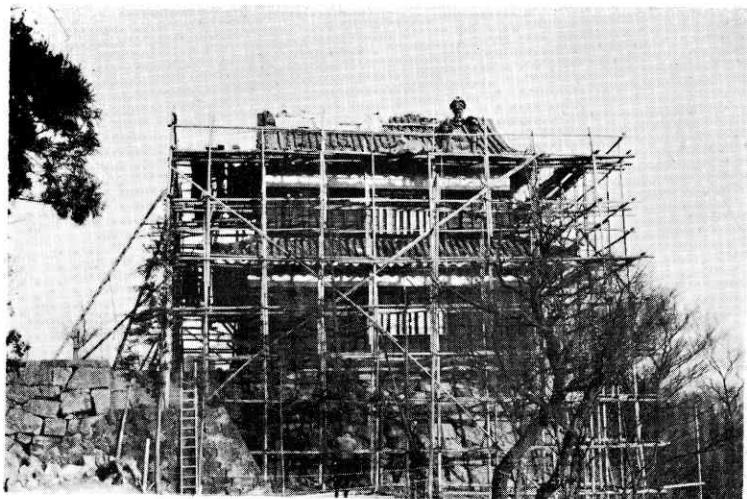
—西から見た北檜修理足場—



—南から見た北檜修理足場—



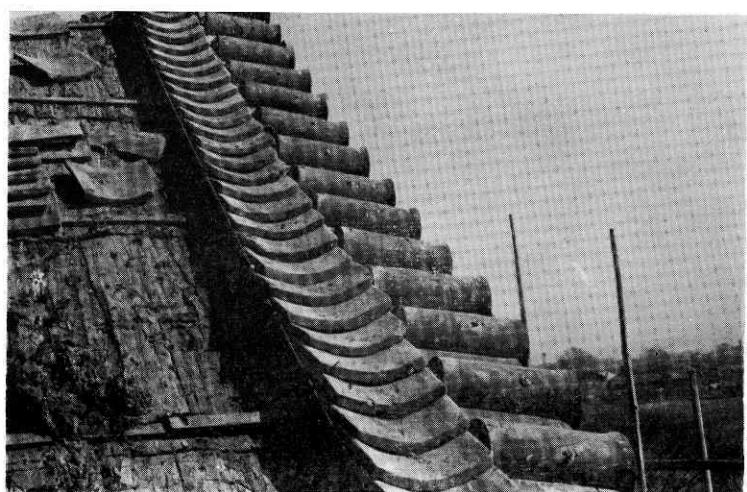
—南から見た北檜修理足場—



—西から見た南櫓修理足場—



—南櫓修理状況①—



—南櫓修理状況②—

— 南 檐 修 理 状 況 ③ —



— 南 檐 修 理 状 況 ④ —



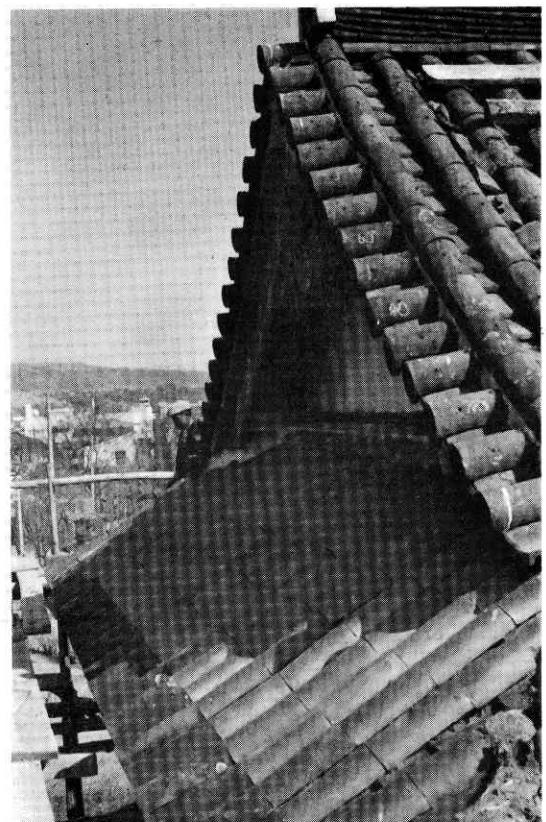
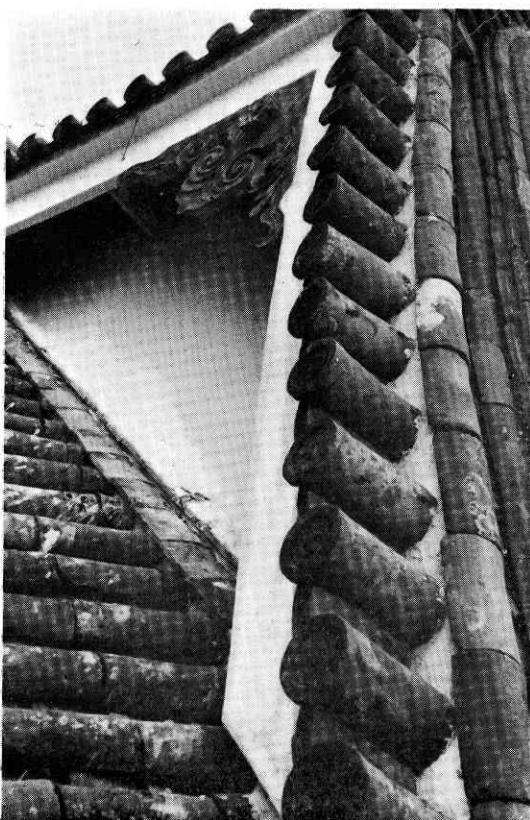
— 南 檐 修 理 状 況 ⑤ —



—北 檐 修 理 状 況 ①—



—北 備 修 理 状 況 ②—



—北 檐 修 理 状 況 ③—

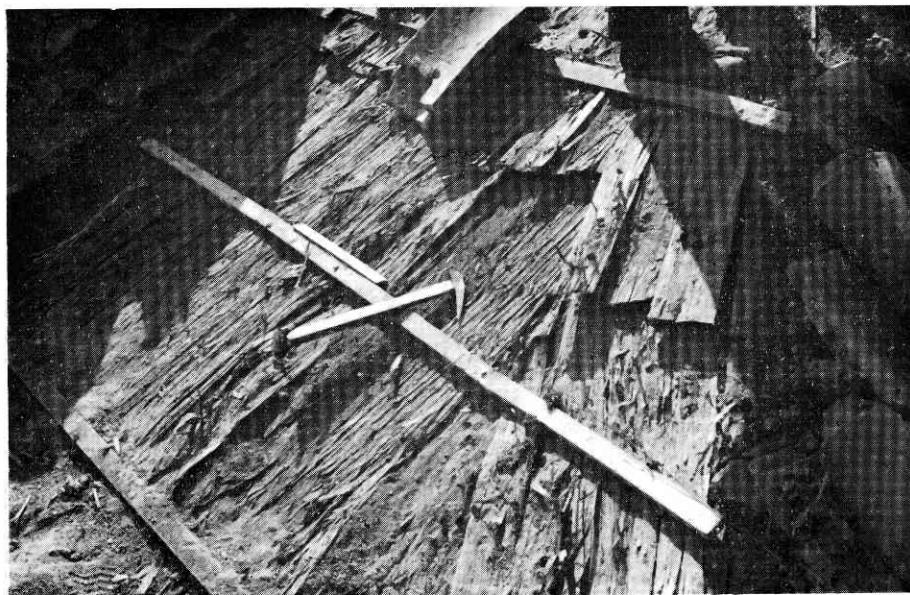


—北側から見た南櫓（修理完成後）—



1

-北 檐 修 理 状 況 ④-



1

-北 檐 修 理 状 況 ⑤ (東側野地板) -



—南側から見た北櫓（修理完成後）—



—東南側から見た北櫓（修理完成後）—



—西側から見た北櫓（修理完成後）—



—東側から見た南櫓(修理完成後) —



—西北側から見た南櫓(修理完成後) —



—修理完成なった南・北両櫓全景—